

ROTARY CLUB OF

KANAZAWA-NORTH WEEKLY



金沢北ロータリークラブ

例会日：木曜日 12:30～13:30

例会場：卯辰山・ホワイトハウス

事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所

TEL <0762> 63-1151

会長：山田 安隆 幹事：大村 精二

会報委員長：清水 忠

1973・12月27日 第6号

“日本の美”

金沢東RC 高橋 勇氏



わび、さび、しおり……それは、日本の風土と伝統に育まれて来た日本人の心のふるさとである。

その古雅で深遠な美の精神を、文化の荒廃に喘ぐ欧米人は、今強く求めているという。

ところが日本人自身は、このすぐれた美を、その身近かきの故に等閑に附してはいないだろうか。

戦後、瓦礫の中の日本は文化国家の建設をめざしていた。しかし30年後の今日、それとは全く異った経済大国として変貌した。そして今、厳しい経済的危機に直面していることを思う時、日本古来の美への認識と、文化への努力が、今日本人にとって極めて必要な視点であることを疑うことができない。

“見わたせば花も紅葉もなかりけり 裏の苫屋の秋の夕暮れ”

武野紹鷗（1560年作）

—金沢北RC例会卓話より— 文責 清水 忠



かなざわ文学散歩

—土堀のあるまち—

風は冷たかった。電車通りと反対の小さな道に入って行くと、人通りも疎らだし、両側の家も士族屋敷ふうで、昔ながらの崩れかけた土堀がつづいていた。

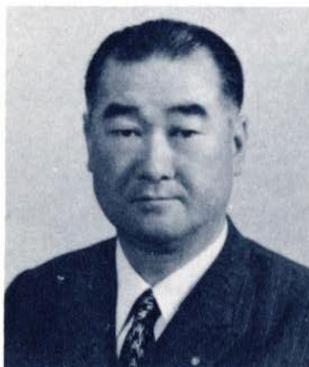
堀の上には蕪かずらが枯れて、風に蔓の先がふるえていた。

その士族町を通過って坂道を登った。冬の陽射しの中に、城の白壁が冷たく光っていた。

松本清張“ゼロの焦点”より

私 の 名 刺

笠 間 恒 次



戦後商事会社に入社、建設機械を担当致しました関係もありまして、北陸三県の建設関係の皆様方に大変お世話に相成り、お陰様で昭和42年ユーザー並びにメーカーの御支援にて千代田重機(株)（資本金2千万円）を誕生させて戴きました。

建設機械も凡ゆる機械に見られる如く、始めは幼稚な物が沢山ありましたが、現在のご承知の如く、道路・港湾・河川・建築等凡ゆる分野に目を見張る活躍を致しております。

之もユーザーの方々の使用経験からの忠告、メーカー設計陣の弛まざる努力等にて今日の立派な機械が出来たのです。しかしながら先進国アメリカの建設機械を見ますと未だ何年かの差が見られます。

私も此の道に入り26年、建設機械の販売とサービスを通じ国土建設の一翼を担うを自負し、ユーザーの身になり、ユーザーの望む機械を供給し、サービスは迅速確実をモットーに邁進致したいと存じます。

ロータリアンとして常に恥ない行動を職業を通じ発揮し、社会に奉仕致したいと念じております。金沢三中、宇都宮飛行学校卒。家族＝母67才、私46才、妻38才、長女16才、次女10才、長男7才。趣味＝麻雀・釣。

木 田 忠 男



昭和7年金沢市に生まれ、昭和20年4月旧県立金沢三中に入学、野球部に籍を置き野球に熱中の中学生を送りました。昭和22年旧制中学校最後の全国中学校選抜野球大会で甲子園に出場しました。昭和23年4月新制高校発足の折、高校一年は石川県立第一高等学校（現在泉丘高校）に入学、一年間はボクシングに熱中、高校二年の時桜丘高校に帰り、その秋から再び野球部に籍を置き選手として身心を練磨しました。また三年の時には生徒会長として学生の自治活動の問題ととり組み、スキースキーの国体選手として全国の強豪と技を競いました。

昭和26年3月高校を卒業し、3年間サラリーマンの生活を送りましたが、10才の時父をなくし母の手一つで育てられてきました私は、常に独立独歩自分の力で事業を起したいと考えてきました。昭和29年5月ようやく念願の自立の機会を得、建設資材会社木田組を設立しました。しかし当時は砂利の採集運搬のほとんどは人力により販売も僅少で事業の乗り切りの努力は相当なものでした。

しかし私の事業も日本の発展と共に伸展し、機械力の導入は事業の振興に拍車をかける幸運に恵まれました。昭和45年河北郡高松町地内に7万5千平方メートルの原石採集地、3万平方メートルの工場敷地に砕石工場を作り、更に傍系事業として埋立、道路、金沢築港の事業も進めてきました。昭和40年6月にガソリンスタンドを設立、今年更に1ヶ所スタンドを設立しました。

こうした事業の推進に当っては、高校時代のスポーツで鍛えた体と心、特に「一事集中」の信念が大きく役立っていると考えています。母と妻、一男二女の六人家族で日々を送っています。先輩の皆様のお指導をお願いします。

私の考えるロータリー (5)

ロータリー情報委員長 柴田 三郎

—“四つのテスト”を中心に—

国際ロータリーの二つの目玉であり、二大スローガンとして貴重に扱われているのは、“Service Above Self”と“He Profits Most who Serves Best”であることは前号において述べたが、こうしたロータリーの倫理、精神を更に具体的に表現したのが、日本語でいういわゆる“四つのテスト”即ち、“Four-way Test”である。その本文の日本語訳は……1. 真実かどうか。2. みんなに公平か。3. 好意と友情を深めるか。4. みんなのためになるかどうか。……の4カ条であり、而して“ロータリアンの言行はこれに照らしてから”とある。

これの原作者は1954～55年のR I 会長ハーバート・テイラー氏であって、ロータリー入門の最初に教えられる金科玉条であり、久しく強調されて来た。が、私はこの4カ条の日本語版にはなじめないばかりか、いささか抵抗を感じつつ、無視して来たのが偽らざる告白である。私が過去に“ロータリアン読本”及び“ひろがれ、まわれ”の二つのロータリー著書を出版し、また多くのロータリー論を続けてまいったが、この“四つのテスト”だけは避けて通って来た。真実とは一体何であろうか。世の中には正しきもの、正しからざるもの、善意の人、しからざる人などいろいろであるが、一律に誰れをも公平に扱えることであろうか。好意とは誤解される言葉ではなかろうか。同じい意味で、善悪等しくみんなのためになることが出来るだろうか。と、疑問を持ちつつ、出来ない相談をいくら強調しても、それは所詮カラ念仏ではないか……と、いう私のヘソ曲りからである。

ところが果然、“ロータリーの友”3月号に、大阪の塚本義隆バスターガバナーが、論文「The Four-way Test の訳語の再検討を」と題して発表され、従来の訳文の誤りを指摘し、創唱者ハーバート・テイラー氏に書信をおくってその意図を確認し、四つのテストの日本語版は標題からすでに誤りであると。つまり、4カ条中三つできたら75点というのではなく、全部を一括しての自省自戒である。また四つの道ではなく四つ辻であり、四つ辻に来たとき、右するか、左するか、この時去就を考えるのである。というのである。また“公平”は原文にある“FAIR”即ち“正々堂々”というような意味に解釈すべきである。と指摘しておられる。私はこれでやっと“四つのテスト”の納得が出来た。

私は、塚本さんの呼びかけに応じて、早速私の試案を“ロータリーの友”5月号に「四つのテスト新訳私案」と題して発表した。私は原文を研究したわけでもなく、英語にも弱い、テイラー氏の考え、精神は判るような気がしてならないので、この意味において、またロータリアンの信条として適切肝要なものをとの願いをこめて、従来の“四つのテスト”を大きく崩さない程度に、4章の字数をも合わせて新作したのが次の通りであって、おこがましい限りではあるが、苦心の労作である。と、いささか自負している次第。

—ロータリアンの信条—

- うそ、偽り、無理はないか。
- 正々堂々筋が通っているか。
- 善意と友情に徹しているか。
- 世のため人のためになるか。

これが出来てからは、私はこれを座右の銘とし、人生への信条とし、ロータリーは、これに始まり、これが終着である。とさえ確信を深めている。

第10回例会

◆12月6日(休曇) ホワイトハウス 12:30~13:30

1. 卓話 “悟りについて”
来教寺住職 河合智海師
2. 出席 出席27名、欠席11名、出席率71%
先週補正率97.4%
3. 来訪者 金沢RC 坪野俊雄君、来栖信夫君
金沢東RC 矩幸成君
金沢西RC 坂本宗一郎君
金沢南RC 飯田一郎君
4. おめでとう12月
誕生祝 岡部三郎君、山田淳君
若野三朗君、吉田昭炳君
結婚祝 米沢繁男君、土原一二君
山岸与作君
5. 幹事報告 認証状伝達式 岡崎東RC49.5.3
岡崎市民会館
6. 今日のニュース 国会開会さる。石油危機とインフレーション対策に論議集中。

第11回例会

◆12月13日(休雨) ホワイトハウス 12:30~13:30

1. 卓話 “ロータリー情報” 柴田三郎会員
2. 出席 出席31名、欠席7名、出席率81.6%
先週補正率89.5%
3. 来訪者 金沢RC 山本清嗣君、竹村重武君
松本修成君
金沢東RC 浅田裕久君、平野知康君
中島徳太郎君、三谷進三君
金沢西RC 吉川正美君
金沢南RC 米谷半平君
4. 今日のニュース
・三木副総理(日)キッシンジャー国務長官(米)中東各国を歴訪、中東戦争と石油危機の解決について各国首脳と交渉。
・米議会、エネルギー節約のため、サマータイム制を可決。

◆第12回例会

◆12月22日(出雪) ホワイトハウス 18:00~20:30

1. 会員・家族合同親睦会
2. 出席 会員出席34名 欠席4名
出席率89.4% 家族出席55名
3. 来訪者 金沢東RC 諸江賢二君

◆会員家族合同親睦会開かる

本年棹尾をかざる家族親睦会は、12月22日夜、われらのホームグラウンド・ホワイトハウスで華やかに開かれた。
折しも卯辰山に降りしきる新雪はホワイトクリスマスにふさわしく、会員家族の楽しい交歓に夜のふけるのも忘れる一夜であった。



◆ロータリー例会卓話案内

- 1月10日 新年のあいさつ 山田会長
- 1月17日 北国新聞社副社長 上山南洋氏
- 1月24日 ロータリー情報 三田良信君

◆行く年を送る

北ロータリー発足の記念すべき今年も、数々の思出を残して終ろうとしている。
来年は厳しい試練の年になりそうだが、会員諸兄の奮闘を期待して、静かに行く年を送り、来る年を迎えたい。